

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2017年11月24日

[テーマ] ボランティア活動―「義理人情」垣間見る―

文化の日（11月3日）に開催された、第27回ぐんまマラソンのリバーサイドジョギングに初めて参加した。当日の会場では、給水所、コース案内、荷物預かり、完走証発行など、多くの場所でボランティアの方々のお世話になった。

完走後に職場の仲間らと記念写真を撮った後、売店の焼きまんじゅうや、参加者に振る舞われるおきりこみを食べ、ステージの演奏を楽しんだが、にぎやかでフェスティバルのような雰囲気すらあった。これほど大きなイベントの成功には多くの関係者の協力があったに違いないが、ボランティアの皆さんの温かいサポートや声援は、この日の良い思い出を一層引き立ててくれた。

今月の18、19の両日に開催された、まえばし学校フェスタ2017は前橋市教育委員会主催の催しであるが、こんどは自分がボランティアとして参加する側に回った。前橋ロータリークラブをはじめとする前橋市内6ロータリークラブのメンバーがボランティアとして、作品展示準備、来場者や参加児童・生徒の案内、会場巡回、撤収等の作業に当たった。

当日は多くの方が来場され、イベントを楽しまれていた。当番時間の合間に、会場に展示された絵画、書道、理科研究や、ブース発表、ステージ発表などを見たが、見どころが多く、その内容に大いに感心させられた。こうした経験はボランティア冥利につきる。

ボランティア活動がこのように活発なのは、地域への愛着が強い現れであろう。ボランティアの善意は、地域社会を強くもする。今回、精力的に動くボランティアの方々に触れ、上毛かるたに登場する当地の「義理人情」の意味するところを、垣間見ることができたような気がした。

（ 日本銀行前橋支店長
岸 道信 ）